

# 新たな「公共圏」モデルの構築

研究代表者 渡 邊 登

## 1. プロジェクトメンバー（平成27年9月現在）

渡 邊 登  
佐 藤 康 行  
原 田 健 一  
中 村 潔  
松 井 克 浩  
古 賀 豊  
杉 原 名穂子  
中 村 隆  
北 村 順 生

## 2. 研究活動の概要

本研究プロジェクトは、高度情報化、メディアテクノロジーのグローバルな拡大のもとで、現実の地域社会におけるコミュニケーションが多層的・複合的な「公共圏」を形成するための諸条件の検討を課題としている。

2014年度は2013年度に引き続き、研究メンバーが各々ないし複数で個々の専門領域から具体的なフィールドへのアプローチによる調査研究を行うとともに、その成果等を研究会を開催して確認するとともに、ゲスト発表者による公開研究会も行った。

### (1) 調査研究

「バリ＝ヒンドゥー教徒の社会における「空間の圧縮」とその帰結」科学研究費基盤（C）（研究課題番号：24520910；研究代表者：中村潔）に関する現地調査（インドネシア共和国バリ州およびNTB州）や、原発立地地域である柏崎市・刈羽村を対象としたポスト福島第一原発事故における地域コミュ

ニティの持続的「発展」「再生」の可能性を探る事例調査とともに、日本と同様に従来から積極的な原発推進路線をとる韓国においてポストフクイチ後に持続可能な地域社会への転換に向けた取り組みを進めつつある地域事例（ソウル市、順天市等）との比較研究（トヨタ財団研究助成プログラム「ポスト福島第一原発事故における地域コミュニティの持続的「発展」「再生」の可能性」研究代表者：渡邊登）、東北タイ農村の住民組織活動調査（ソーシャルキャピタルの観点からその可能性を検討）、また福島第一原発事故避難者へのインタビュー調査に基づく地域の復興・再生の諸条件を探る調査研究等が挙げられる。

なお、以上の調査研究は著書、論文等として成果を発表している4. 研究成果の一覧を参照のこと。

また、上記に加えて昨年度に引き続き、本研究プロジェクトのメンバー（原田健一、北村順生、古賀豊、中村隆志）が主体となって、映像資料の発掘、調査のみならず、新たな地域に根ざした映像の製作、さらにはそれらの映像の公開、閲覧ができる仕組みづくりを目指した、地域社会と連携した実践的な研究プロジェクトとして、研究プロジェクト「地域文化に関するコミュニティな映像アーカイブ情報の構築と情報発信」に取り組んでいる。

## (2) 研究会

本年度は以下の研究会を開催した。

### ◆第1回

日 時：7月15日（火）18：30-20：00

場 所：総合教育研究棟F677

報告者：川喜田尚氏（株式会社ジェイ・スポーツ経営戦略部特命担当部長  
／NPO 法人放送批評懇談会理事・「GALAC」副編集長）

題 目：「スポーツからみる放送の公共性」

### ◆第2回

日 時：9月11日（木）19：00-20：30

会 場：総合教育研究棟D301

報告者：北野圭介氏（立命館大学映像学部教授）

題 目：「公共性，メディア，唯物論」

(3) シンポジウム

トヨタ財団研究助成プログラム「ポスト福島第一原発事故における地域コミュニティの持続的「発展」「再生」の可能性」の研究報告として以下の2回のシンポジウムを開催した

◆第1回

日 時：2014年10月17日

場 所：延世大学サムソン学術方法センター

1. シンポジウムのタイトル

「ポスト福島第一原発事故における地域コミュニティの持続的「発展」「再生」の可能性 — 日韓比較研究 —」（トヨタ財団助成研究）

2. シンポジウムのタイムスケジュール

司会：セ・ジョンミン（延世大学）

I. 日本側発表 午後2：00～4：15

(1) 福島第一原発事故の概要と原発避難の問題 松井克浩（新潟大学）

(2) 柏崎刈羽原発の再稼働等に関するローカルメディアの分析

伊藤 守（早稲田大学）

(3) 柏崎刈羽原発立地地域住民の生活意識 杉原名穂子（新潟大学）

(4) ポスト福島第一原発事故における柏崎・刈羽地域の原発との関係性の変容について

渡邊 登（新潟大学）

(5) 韓国側からのコメント

II. 韓国側発表 午後4：30～6：00

(1) 福島第一原発事故に対する韓国世論 イ・テドン（延世大学）

(2) 福島第一原発事故に対する韓国地域社会の対応

イ・ユジン（韓国緑の党共同政策委員長）

(3) 日本側からのコメント

◆第2回

日 時：2014年10月25日午後2時～午後5時

場 所：ANAクラウンプラザホテル新潟3F「阿賀」

## シンポジウムのタイトル

「ポスト福島第一原発事故における地域コミュニティの持続的「発展」「再生」の可能性」(トヨタ財団助成研究)

### I. 発表 午後2:00～3:30

- (1) 福島第一原発事故の概要と原発避難の問題 松井克浩(新潟大学)
- (2) 柏崎刈羽原発の再稼働等に関するローカルメディアの分析  
伊藤 守(早稲田大学)
- (3) 福島第一原発事故後の原発をめぐる生活意識～刈羽・柏崎・長岡三  
地域の調査から～ 杉原名穂子(新潟大学)
- (4) ポスト福島第一原発事故における柏崎・刈羽地域の原発との関係性  
の変容について 渡邊 登(新潟大学)

### II. 地域の方々からの応答 午後3時40分～4時20分

- (1) 新野良子さん  
(「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」会長)
- (2) 高桑千恵さん(同委員)

### III. 討論 午後4時20分～4時50分

## 3. 研究成果の概要と今後の課題

本プロジェクトでは既述したように、それぞれが個別のフィールド(日本、韓国、インドネシア、タイ等)を対象に、震災被害と復興問題、高齢化問題、環境問題、男女平等等々の具体的課題の分析に基づいて公共圏モデルの解明を目指して研究を進めてきており、本研究は公共圏モデルの仮説的提示にとどまらない、社会提言を視野に据えた研究でもある。ここでの社会提言とは、日本学術振興会「人文社会科学振興プロジェクト研究事業」が提唱する「プロジェクト研究の成果を社会への提言として発信し、現代的諸問題の解決に貢献する」ことを指す。ただし、個別フィールドでの具体的課題分析にとどまっており、上記の目標は中期的な重要な課題となる。

#### 4. 研究成果

(論文)

- ・ Nakamura T (2015) The action of looking at a mobile phone display as nonverbal behavior/communication: A theoretical perspective, *Computers in Human Behavior* 43: 68-75.

研究成果：

中村潔, 2014, 「バリにおける慣習村組織の変化とその非全体論的解釈」杉島敬志編『複ゲーム状況の人類学 — 東南アジアにおける構想と実践』風響社, pp. 117-152.

(口頭発表)

- ・ 松井克浩「災害からの集落の再生と変容 — 新潟県山古志地域の事例」(日本村落研究学会第62回大会テーマセッション「災害を処遇する家と村」, 2014年11月, グリーンピア三陸みやこ)

## 文化史・文化理論の再構築

研究代表者 三 浦 淳

### 1. プロジェクト内容概略

従来から固定的なジャンルや時代に囚われずに、研究者個人の自主的な関心を軸として推進されているプロジェクトですが、2014年度は後半から新たなメンバーを迎え、多様性や国際性がいっそう高まったと言えるでしょう。

ジャンルで見るなら、映画・アニメ・写真といった視覚芸術分野での研究業績の多さが目を惹きます。各研究の対象が国内外に及んでいるのは当然のことですが、口頭発表・講演やシンポジウムが行われる場所も国内各地だけでなく国際的な広がりを見せています。

他方、視覚と同時に身体性が問われる演劇に関する論文もありますし、人間